

「HDビデオ会議システム」 導入のすすめ



HDビデオ会議システム PCS-XGシリーズ



sony.jp/pcs/

「ビデオ会議システム」導入前に知っておきたい情報

Q. 「HDビデオ会議システム」は導入にいくらくらいかかる？

A. PCS-XG シリーズは、本体、カメラ、マイク、リモコンに初年度の保守サービス費まで含んだ「HDビデオ会議システム」で、76万6,500円からという魅力的な価格設定になっています。これは、幅広いお客さまにお使いいただきたいという想いから実現した価格です。例えばビデオ会議を3拠点で使用し、今回紹介したような有意義な会議を行うための機器構成をすると以下のようになります。

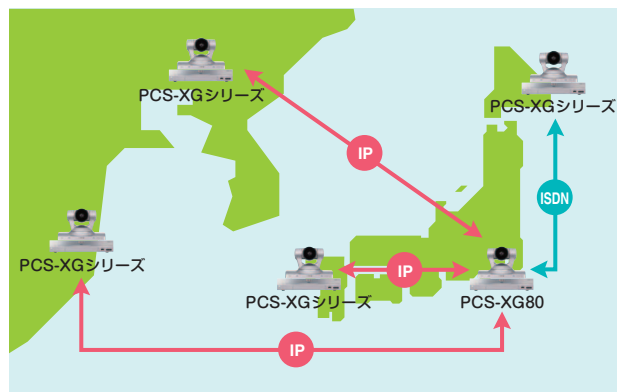
品名	型名	数量	単価(税込)	金額(税込)
HDビデオ会議システム	PCS-XG80	1	115万5,000円	115万5,000円
HDビデオ会議システム	PCS-XG55	2	76万6,500円	153万3,000円
HD多地点ソフトウェア	PCSA-MCG80	1	42万円	42万円

合計 約310万8,000円(税込)

※価格には、配送設置・工事・接続調整などの費用は含まれていません。

Q. 海外との接続はできる？

A. もちろん海外とも通信できます。IPネットワークとISDN回線が混在していても大丈夫。しかも最大10拠点の同時接続が可能です。



PCS-XGシリーズは親機(PCS-XG80のみ対応)1台で最大6地点の接続が可能です。
また、親機2台を接続することで最大10地点の同時会議が可能です。

Q. PCS-XGシリーズのHD高画質映像で通信する場合は、広帯域が必要？

A. クオリティーの高い映像・音声を実現するには、使用する帯域はもちろん広帯域設定にするに越したことはありませんが、PCS-XGシリーズはある程度、狭帯域でもHD映像での通信が可能です。おおまかな目安としては、以下を参考にしてください。

通常の会議でPCデータ、映像ともに動きが多い場合

3Mbps～

通常の会議で、映像に動きが多い場合

2Mbps～

通常の会議で、あまり動きがない場合

1Mbps～

Q. Web会議との違いは？

A. 1対1での気軽な打ち合わせならPCベースのWeb会議でも良いですが、複数の参加者でのコミュニケーションや議論が必要なビジネスシーンでの会議には、やはりビデオ会議専用端末がおすすめです。

	専用ビデオ会議システム	PCベースのWeb会議
画質・音質	○ 高性能カメラ、新工コーキャンセラー	×
操作性	○ 簡単リモコン操作	△ 個人のスキル、PCの性能に左右される
導入費用	△	○ フリーウェアもあり
1対1の打ち合わせ	○ カメラのズーム、パン、チルト機能により、確実に相手の顔をとらえることが可能	○ 個人向け端末なので1対1には適している
大人数対象の打ち合わせ	○ カメラの可動範囲が広いので、少人数～大人数まで対応可能	×
管理・運用	○ システムの統一性が図れ、管理がしやすい	△ クライアントごとの管理が煩雑
長期利用	○ 専用端末なので長期使用が可能。バージョンUPもメモリスティックで行える	×
拡張性	○ 映像：外部出力あり 音声：ミキサーや外部マイク取付可能	△ 映像：外部出力なし 音声：ヘッドセットマイク

※ミキサーなど音声外部入力を使用する場合は必ずエコーキャンセラーを別途ご使用ください。

●“SONY”、“make.believe”および“IPELA”はソニー株式会社の商標です。

ソニービジネスソリューション サイト

sonybsc.com

※特定市場向け商品などソニービジネスソリューションサイトに掲載していない商品もあります

ソニー株式会社

ソニービジネスソリューション株式会社 / 〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-18

掲載の業務用商品およびソリューションに関するお問い合わせは

業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333

●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 0466-31-2588

●FAX 0120-333-389

●受付時間 9:00～18:00(土・日・祝日、および年末年始は除く)

本カタログは再生紙および環境に配慮した大豆インキを使用

2010.4

カタログ記載内容2010年3月現在

HDビデオ会議システム導入効果 ①

ズバリ!! 「HDビデオ会議システム」PCS-XGシリーズを利用すると
遠隔地とも成果を出せる会議ができるんです。

Point 1 きちんと伝わる。疲れしない会議ができる!

従来の「ビデオ会議システム」だと、相手の表情や部屋の様子が見えづらく長時間会議をしていると、目が疲れストレスになり、ビデオ会議を使ったコミュニケーションを避けるようになることがあったと思います。しかし、「HDビデオ会議システム」は高画質だから、**相手の表情や仕草**まではっきり見えるため、まるで同じ会議室にいるような感覚で話ができます。つまりビデオ会議といえども、気が抜けない通常の会議と同様に**集中**できるようになり、**活発な意見交換を促進**するのです。



【HD高画質のポイント】

- ★相手の表情まではっきり見える
- ★印刷物の細かい文字も明瞭
- ★素材感や質感までわかる
- ★手書き文字もクリア
- ★色再現性の向上
- ★大画面化が可能

あの人が賛成って言うんだけど、顔がひきつってる

何か言いたそうだなあ・・・



Point 2 相互のやりとりが活発な会議ができる!

通常の会議では、相互にアイデアや意見が積極的に出るよう、PCの資料を共有したり、ホワイトボードなどに書かれた手書きのイメージを伝えるのは常識ですが、各種のツールを使った遠隔地との会議でも「HDビデオ会議システム」PCS-XGシリーズを利用すれば実現できるんです。

ホワイトボード

HD映像での通信で、カメラで撮ったホワイトボードなどに書かれた細かい文字まではっきり見えます。

パソコン

パソコン映像も簡単・なめらかに共有。パワーポイントのアニメーションやページ送りもスムーズに見えるので、ストレスが軽減されます。

PCS-XGシリーズなら
PC映像もカメラ映像も両方同時に
最大30フレームで共有可能



ペンタブレットを使って
映像に書き込みができる!

ペンタブレット

ペンタブレットを使って、共有しているカメラ映像やPC画像の上に書き込みできるから便利です。



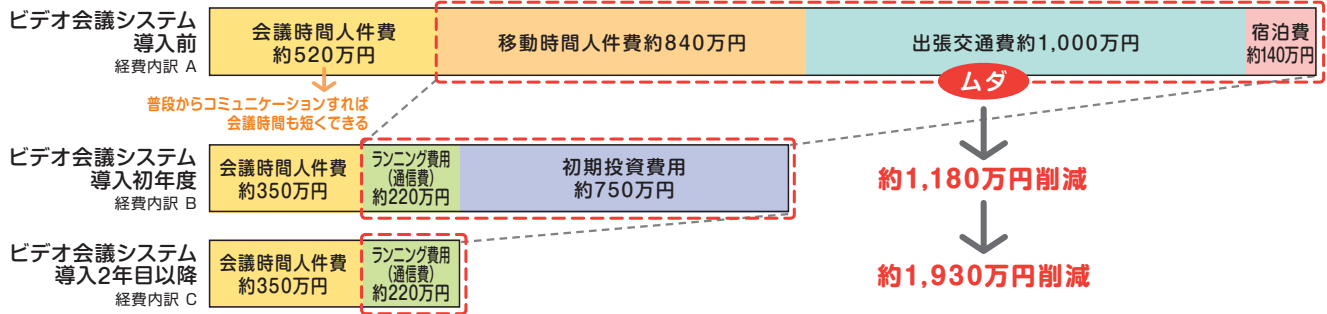
だから、発表者が説明しているのを他の参加者が聞く、というような一方的になりがちだった従来のビデオ会議に比べ、相互のやりとりが活発になるのです。

HDビデオ会議システム導入効果 ②

「ビデオ会議システム」を導入するとコスト・時間・CO2を削減できるんです。イメージはわいてもやはり具体的な実例を用いて実感してもらいましょう。「ビデオ会議システム」を導入しないとこんなにたくさんのムダがでてしまうんです！

札幌、名古屋、大阪、広島、福岡の5カ所に支社を持つ企業で、各支社から2名が月2回東京の本社に集まって会議を開催した場合と、「ビデオ会議システム」を使用した会議を実施した場合のコスト、時間およびCO2排出量の比較

コスト削減効果 ⇒ 1年後に1,180万円削減

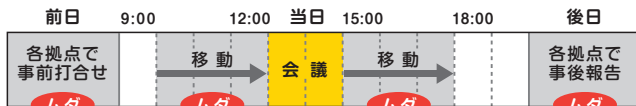


経費内訳 A <会議時間人件費> 6,000円/H×3H×12人分×2回/月×12カ月 <移動時間人件費> 所要時間×6,000円/H×往復×2人分×2回/月×12カ月(所要時間内訳)
 ●東京-札幌: 約3.5H/片道 ●東京-名古屋: 約2H/片道 ●東京-大阪: 約3H/片道 ●東京-広島: 約3.5H/片道 ●東京-福岡: 約2.5H/片道 <出張交通費*> 交通費
 ×往復×2人分×2回/月×12カ月(交通費内訳) ●東京-札幌: 約26,000円/片道1人分 ●東京-名古屋: 約11,000円/片道1人分 ●東京-大阪: 約14,000円/片道1人分
 ●東京-広島: 約29,000円/片道1人分 ●東京-福岡: 約25,000円/片道1人分 <宿泊費> 10,000円/日×3拠点(札幌/広島/福岡)×2人分×2回/月×12カ月
 経費内訳 B <会議時間人件費*> 6,000円/H×2H×12人分×2回/月×12カ月 <ランニング費用(通信費*>) 月額費用約30,000円×6ヵ所×12カ月 <初期投資費用(ビデオ会議端末費用・回線費用)> (ビデオ会議システム端末費用*4+回線費用*5) ●PCS-XG80(本体) 1,155,000円×6拠点 ●PCSA-MCG80(多地点ソフトウェア) 420,000円×1
 ●初期費用約35,000円×6ヵ所
 経費内訳 C <会議時間人件費*> 6,000円/H×2H×12人分×2回/月×12カ月 <ランニング費用(通信費*>) 月額費用約30,000円×6ヵ所×12カ月

*1 交通費は2009年2月時点の交通機関の平均単価より算出。 *2 会議時間人件費の減少は、ビデオ会議システムを導入することで通常のコミュニケーションが増え、定例で開催している内容が少なくなると予想されるため。 *3 通信費は2009年2月時点の各社サービス平均単価より算出。 *4 端末費用は希望小売価格(税込)より算出。

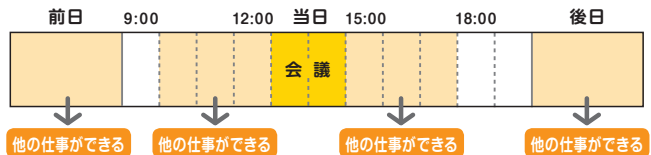
時間削減効果 ⇒ 1年間で1,392時間削減

ビデオ会議システム導入前 ▷大阪から東京へ代表者が出張して会議



合計ムダ時間計算式 所要時間×往復(2)×2人分×2回/月×12カ所
 ●東京-札幌 約3.5H/片道 ●東京-広島 約3.5H/片道 ●東京-名古屋 約2H/片道
 ●東京-大阪 約3H/片道 ●東京-福岡 約2.5H/片道

ビデオ会議システム導入後 ▷移動時間カット、全員参加で事前・事後MTG時間もカット



CO2削減効果 ⇒ 1年間で約26,642kg削減

交通機関を利用した出張会議



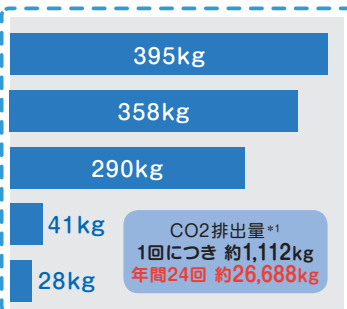
福岡⇄東京間
往復1,812km(片道906km)

札幌⇄東京間
往復1,644km(片道822km)

広島⇄東京間
往復1,332km(片道666km)

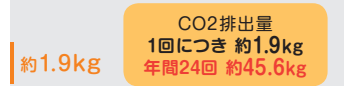
大阪⇄東京間往復
往復1,090km(片道545km)

名古屋⇄東京間
往復732km(片道366km)



ビデオ会議システムを利用した会議

札幌・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
6拠点接続



本社に集まる会議(約26,688kg)を止めて、ビデオ会議(約46kg)にすることで、CO2の排出量を年間約26,642kgも削減することができます。



これは1,903本の杉の木が吸収するCO2の量に相当します。*2

交通機関を利用した場合のCO2排出量 合計約1,112kg内訳

＜福岡⇄東京間(飛行機) 395kg＞ 往復距離 約1,812km×2人×0.109kg*3
 ＜札幌⇄東京間(飛行機) 358kg＞ 往復距離 約1,644km×2人×0.109kg*3
 ＜広島⇄東京間(飛行機) 290kg＞ 往復距離 約1,332km×2人×0.109kg*3
 ＜大阪⇄東京間(新幹線) 41kg＞ 往復距離 約1,090km×2人×0.019kg*3
 ＜名古屋⇄東京間(新幹線) 28kg＞ 往復距離 約732km×2人×0.019kg*3

ビデオ会議システムを利用した場合のCO2排出量 合計約1.9kg内訳

＜ビデオ会議システム PCS-XG80/0.5kg＞消費電力約0.1kWh×2時間×6台×0.39kg*4
 ＜ディスプレイ FWD-S42H1/1.4kg＞消費電力約0.3kWh×2時間×6台×0.39kg*4

*1 各空港および各駅と本社・支社間の移動分は含んでいません *2 杉の木1本が、1年間に吸収するCO2は約14kg *3 各交通機関の輸送量あたりのCO2排出量【算出資料出典：国土交通省ホームページ(<http://www.mlit.go.jp/index.html>)「運輸部門の地球温暖化対策について」輸送量あたりの二酸化炭素排出量】 *4 電力(kWh)あたりのCO2排出量【算出資料出典：全国地球温暖化防止活動推進ウェブサイト(<http://www.jccca.org/>)より環境家計簿用 排出係数一覧(平成18年6月更新) fshitumonshu_4_4.pdf】